

【05-01】入胎----マハーマーヤーの夢

母のマハーマーヤー (Mahāmāyā) が菩薩が白象となって、右脇から胎内に入る夢を見る(1)。

[A] 原始聖典

- ①DN.016 ‘Mahāparinibbāna-s.’ (vol. II p.108) ; 菩薩が兜率天より正念・正知にして母胎に入るとき、大地は揺れ動き、震い、振動する (yadā Bodhisatto Tusitā kāyā cavitvā sato sampajāno mātu-kucchiṃ okkamati, tadā ‘yaṃ paṭhavī kampati saṃkampati sampavedhati) 。
- ①MN.123 ‘Acchariyabbhutadhamma-s.’ (希有未曾有法経 vol.III p.119) ; 念あり、知あつて、菩薩は兜率天身より没して母の胎内に入った (Tusitā kāyā cavitvā mātu kucchiṃ okkami) 。
- ①AN.04-127 (vol. II p.130) ; 菩薩は兜率天から、正念・正知をもって母胎に入る (sato sampajāno mātukucchiyaṃ okkamati) 。
- ①AN.08-070 (vol. IV p.312) ; 菩薩は兜率天から、正念・正知をもって母胎に入る (sato sampajāno mātukucchiṃ okkamati) 。
- ① ‘Therīgāthā’ V.162 (p.139) ; 多くの人々のためにマーヤーはゴータマを産んだ (bahūnaṃ vata atthāya Māyā janayi Gotamaṃ) 。
- ②長阿含002「遊行経」(大正01 p.016上) ; 若始菩薩從兜率天降神母胎、專念不乱、地為大動。
- ③中阿含032「未曾有経」(大正01 p.470上) ; 世尊在兜瑟哆天於彼命終知入母胎。
- ⑥増一阿含42-05 (大正02 p.753下) ; 菩薩從兜術天降神來下在母胎中是時地亦大動。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.716上) ; 爾時菩薩從觀史天下、託生劫比羅城淨飯王家。
- ⑩根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」(大正23 p.907下) ; 爾時菩薩在觀史天宮、將欲下生、先以五事觀察世間。云何為五。一觀遠祖、二觀時節、三觀方國、四觀近族、五觀母氏。時六欲天來至母所、三淨其腹。摩耶夫人因寢、夢見六牙白象來降腹中。
- ⑩根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.947下) ; 菩薩從觀史天下託生劫比羅城淨飯王家。
- ⑩根本有部律「出家事」(大正23 p.1020下) ; 爾時菩薩在觀史天宮、觀察世界、有五事具處、將欲下生。時六欲諸天、辦所應辦、於迦維羅衛國、闍頭檀家、三淨摩耶夫人胎中、乃令獲大吉夢。見菩薩作白象形、降神母胎。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.106下) ; 我今從觀史多天下生人間、於白淨王最大夫人(摩耶)胎中、為其太子、誕生之後証常住果。……即於夜中、如六牙白象形、下於天竺、降摩耶夫人清淨胎內。爾時摩耶夫人即於其夜見四種夢。一者……二者……三者……四者……。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.297下) ; 是時菩薩於天宮上、以五種事觀察世間。云何為五。一觀遠祖、二觀時節、三觀方國、四觀近族、五觀母氏。六欲諸天三淨母腹、摩耶夫人因寢夢見六牙白象來降腹中。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.388中) ; 若大菩薩從觀史多天下降母胎時、大地振動……。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.395中) ; 爾時世尊為菩薩時在觀史多天、以五種事觀察世間。六欲天子三淨母腹、現白象相來入母胎。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.399中) ; 菩薩昔在觀史天宮、將欲下生觀其五事。欲界天子三淨母身、作象子形託生母腹。
- ⑫法天訳「七仏経」(大正01 p.152中) ; 彼菩薩摩訶薩從兜率天下降閻浮入母胎時、部摩夜叉高声唱言。此大菩薩大威德大丈夫捨天人身及阿修羅身處彼母胎而受人身……。
- ⑫白法祖訳「仏般泥洹経」(大正01 p.165中) ; 仏為菩薩時、從第四兜術天來下、入母腹中。時

天地為大動。

- ⑫失訳「般泥洹經」（大正01 180下）；若始菩薩、從第四天下入母胎、明哲慈意、欲見道化、開發愚蒙、乃放神光、震動天地。
- ⑫法顯訳「大般涅槃經」（大正01 p.191下）；菩薩在兜率天、將欲來下、降神母胎、故大地動。
- \*①DN.014 ‘Mahāpadāna-s.’（大本經 vol. II p.012）；Vipassin菩薩は兜率天から正念にて母の母胎に下るとするのは法である（Vipassī Bodhisatto Tusitā kāyā cavitvā sato sampajāno mātukucchiṃ okkami. ayaṃ ettha dhammatā.）。
- \*②長阿含001「大本經」（大正01 p.003下）；當知諸仏常法毘婆尸菩薩從兜率天降神母胎從右脇入、正念不乱……。
- \*⑫「善見律毘婆沙」（大正24 p.760上）；如菩薩母夢菩薩初欲入母胎時、夢見白象從切利天下入其右脇、此是想夢也。

## [B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.050, 南伝28 p.107) ；（夢の中で）菩薩は白色の優れた象となって……母〔妃の臥する〕臥榻の周りを、右の方へ三たび繞り、〔母妃の〕右脇を開いてその胎に入られたようであった。斯うして菩薩は、阿沙陀祭最後の日に (uttarāsālha-nakkhattena)、母胎に宿られたのである。
- ②修行（大正03 p.463中）；於是能仁菩薩、化乘白象、來就母胎。用四月八日、夫人沐浴、塗香着新衣畢、小如安身。夢見空中有乘白象、……來詣我上、忽然不現。
- ④瑞応（大正03 p.473中）；菩薩初下、化乘白象。冠日之精、因母昼寢、而示夢焉、從右脅入。夫人夢寤、自知身重。
- ⑤異出（大正03 p.618上）；即下入王夫人腹中。
- ⑥普曜（大正03 p.491上）；于時菩薩過冬盛寒、至始春之初、修合星宿、春末夏初樹木彫落、初始花茂不寒不暑。……菩薩便從兜術天上、垂降威靈化作白象。口有六牙……降神于胎趣於右脅。……時晏然窳忽然即覺、見白象王光色如此來处于胎其身安和。
- ⑦方広（大正03 p.548下）；冬節過已、於春分中毘舍佉月、……氏宿合時三界勝人。……而弗沙星正與月合。菩薩是時從兜率天宮沒、入於母胎。為白象形、六牙具足、……於母右脅降神而入。聖后是時安隱睡眠、即於夢中見如斯事。
- ⑧LV. (Lef. p.054, 外蘭・梵 p.386, 外蘭・訳 p.789) ；ヴァイシャーカ月の……第十五日の満月の夜、……〔月が〕プシュヤ星と合する時に (vaiśākhamāse……pañcadaśyāṃ pūrṇamāsyāṃ……puṣyanakṣatrayogena)、菩薩は、兜率天……より下生して、……白象の子となり、六牙を有し……母の右の胎に入りたり。……また、安樂なる寢台に眠りたるマヤー（Māyā）妃は、かくの如き夢を見たり。
- ⑨僧伽（大正04 p.122中）；是時菩薩不懷恐怖、從兜率天降神。
- ⑩十二（大正04 p.146中）；伊羅慢龍王以為制乘名白象、其毛羽踰於白雪山之白。象有三十三頭、頭有七牙、一牙上有七池。……菩薩與八萬四千天子、乘白象寶車來下。時白淨王夫人中窳見白象彷彿、窳寤驚寤以告王。
- ⑪仏讚（大正04 p.001上）；於彼象天后 降神而処胎
- ⑫BC. (01-04) ；王妃は懷妊するに先だつて、夢に真白き象の王が天より降りてその身体にはいるのを見たが、彼女はその折、それにもとづく苦痛を経験することがなかった。
- ⑬行經（大正04 p.057下）；白象如銀山 菩薩乘象王 …… 降神下生時 現瑞甚微妙 菩薩降入胎 如鴈処清淵
- ⑭過去（大正03 p.624上）；爾時菩薩、觀降胎時至、即乘六牙白象、發兜率宮。……以四月八日

明星出時、降神母胎。于時摩耶夫人、於眠寤之際、見菩薩乘六牙白象騰虛而來、從右脅入。……心大歡喜、踊躍無量、見此相已。

- ⑮集經（大正03 p.683中）；菩薩正念、從兜率下、託淨飯王第一大妃摩耶夫人右脅住已。是時大妃、於睡眠中、夢見有一六牙白象、……乘空而下、入於右脅。
- ⑯MV. (vol. II p.008, Jones II p.008) ；「さあ出発する」と菩薩が言われた丁度その瞬間に、夫人は彼の夢を見た。六牙の高貴な象の形をして、彼女の胎内に入る。パウシャ (Pauṣa) 月<sup>②</sup>の満月の夜であった (pūrṇāyāṃ pūrṇamāsyāṃ puṣyanakṣatrayogayuktāyāṃ rātryāṃ) 。
- ⑰衆許（大正03 p.938下）；爾時六欲天子及天帝釈、觀見菩薩乘六牙白象、下兜率天處摩耶腹。……爾時摩賀摩耶、作四種夢。一夢白象口有六牙、二夢白象從天來下入於腹中。

### [C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.005上）；菩薩從兜率天化作白象。（出普曜經）
- ①釈迦（大正50 p.015上）；以四月八日明星出時降神母胎。（出因果經）
- ②歴代（大正49 p.023上）；仏以莊王九年癸巳四月八日、現白象形從兜率降中天竺国迦毘羅城淨飯大王第一夫人摩耶右脇。
- ③氏譜（大正50 p.088下）；（普曜經、瑞応修行二經を引用）
- ④統紀（大正49 p.140下）；菩薩、已從此没、生於人間淨飯王家。乘旃檀樓閣處摩耶夫人胎。
- ④統紀（大正49 p.141下）；時菩薩乘六牙白象從兜率宮……以四月八日明星出時降神母胎。……時摩耶夫人眠寤之際、見六牙白象騰空而來、從右脇入。
- ⑤JM. (p.025, 畑中 p.099) ；マハーマーヤー (Mahāmāyā) 王妃の胎内にアーサール八月の満月の日に (Āsāḥapuṇṇamāyāṃ Uttarāsāḥhanakkhattena)、……結定を得た。……眠りに入っている時、次のような夢を見たそうである。一頭の白い象が黄金の山からおりてきて、彼女を右繞し、右脇を破って入ったかのようなのであった。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.027, 赤沼 p.037) ；かくて、菩薩は立ち上り、兜率天のあらゆる天人を伴いて、……天界を離れ、人間の坐に下り、光榮ある摩耶夫人の胎内に入り給うた。（摩耶夫人の夢：四王天の天人が夫人をヒマワング山に運び、そこで菩薩が白象となって夫人の右脇を開いてその中に姿を隠す）

(1) 白象に乗ってとするものや、夢を四種とするものもある。

(2) Jonesは「月がプシュヤ星と合するとき」(puṣyanakṣatrayogayuktāyāṃ) をパウシャ月に解するがLV.との関連で言えば疑問である。

### 【05-02】入胎——占師が夢を占う

占師がマハーマーヤーの夢を占い、托胎した王子が転輪聖王となるか、そうでなければ仏となると予言する。

### [A] 原始聖典

- ⑪根本有部律「破僧事」（大正24 p.107中）；爾時摩耶夫人即於其夜見四種夢。一者見六牙白象來處胎中、二者見其自身飛騰虛空、三者見上高山、四者見多人衆頂禮圍繞。作是夢已向淨飯王說如上事。時淨飯王即召相師說其夢事、相師答曰、如我相法、王大夫人必當生男、具足三十二丈夫之相莊嚴其身、若紹王位當乘金輪伏四天下、若出家修道證法王位、名聞十方作衆生父。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.050, 南伝28 p.107) ;王は64人の名高い婆羅門たちを呼び寄せ、……問うた。婆羅門達は、「……お妃が御懐妊なされたのでございます。そ〔の王子〕が若し家に留まって〔家庭〕生活なされば世の転輪王となられるであります。若し家を出て生活をなされば、……仏と成られるでしょう。」と〔答えた〕。
- ②修行 (大正03 p.463中) ;王意恐懼心為不樂、便召相師隨若耶、占其所夢。相師言。此夢者、是王福慶、聖神降胎、故有是夢、生子出家、當為轉輪飛行皇帝、出家學道、當得作仏、度脫十方。
- ④瑞応 (大正03 p.473中) ;王即召問太卜、占其所夢。卦曰。道德所歸、世蒙其福、必懷聖子。
- ⑥普曜 (大正03 p.491下) ;時王請梵志問此意、梵志為王說偈言。梵志聞是言 歡喜無不吉 生子有相好 在家為聖王 假愍世出家 成仏祐三界。
- ⑦方広 (大正03 p.549上) ;時王聞此語、即召占夢人、而語彼人言、宜占聖后夢。聖后時告彼己所夢因縁。汝既稱善占……必生勝相子、在家作輪王 威力統所化、出家成仏道 哀愍諸世間。
- ⑧LV. (Lef. p.057, 外蘭・梵 p.390, 外蘭・訳 p.791) ;王は、その時、直ちに、ヴェーダに通曉し、聖典を朗唱する婆羅門たちを招喚せり。……婆羅門達は、かくの如く言えり。「〔あなたの〕種族に不吉なることなく、……最勝の息子を生むべし。……轉輪聖王を、……もし……出家するならば、彼は、三界において供養せられるべき仏陀となり、……」
- ⑬行経 (大正04 p.058上) ;王聞后所夢 懷疑喜踊躍 即召梵志占 為說夢所見 …… 女夢日光明入腹 因此懷妊生吉子 如日赫照普地界 其子德尊主十方 …… 生子聖達輪金輪 …… 此女夢白象 趣入其右脅 …… 所生必為仏
- ⑭過去 (大正03 p.624中) ;爾時白淨王、……即便遣請善相婆羅門。……時婆羅門、即占之曰。……此相必是正覺之瑞。若不出家、為轉輪聖王、王四天下、七宝自至、千子具足。
- ⑮集経 (大正03 p.683下) ;爾時占夢婆羅門師、白大王言。夫人所夢、其相甚善。大王今者當自慶幸夫人所産。必生聖子、彼於後時、必成仏道、名聞遠至。
- ⑯MV. (vol. II p.012, Jones II p.011) ;もし世間に止まれば、彼は強力な王になるでしょう。しかし、もし宗教的生涯を選び取るならば、自分を導き人天を導く仏陀となられるでしょう。
- ⑰衆許 (大正03 p.939上) ;王以此夢問其相師。相師告王。今此夫人必生太子具諸相好、若在王宮作轉輪王、若是出家修諸梵行、成正等覺号天人師。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.015上) ;爾時白淨王、……即便遣請善相婆羅門。(出普曜経)
- ④統紀 (大正49 p.141下) ;王召婆羅門占之。曰今此夫人胎中之子、必是正覺之瑞、若不出家當為輪王。
- ⑤JM. (p.026, 畑中 p.100) ;婆羅門たちは、「大王よ、ご心配召去るな。お妃さまに胎児が宿られたのです。そしてそれは男児であって女児ではありません。彼がもし俗家にとどまるならば、轉輪王になるでありますし、もし俗家から離れて出家するならば、世間において煩惱の覆いを開く仏陀になるであります」と答えた。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.029, 赤沼 p.039) ;淨飯王は直ぐ様六十四人の婆羅門を召し寄せてこの夢の占を命ぜられた。……「大王よ、……御子がもし家にあり給わば四天下を領する轉輪聖王となり給うであろうし、またもし、世の騒々しさを逃れ給うであろうならば……遂に仏陀の大果を得給うであります」。

【05-03】入胎---胎内で十ヵ月を過ごす

菩薩がマハーマーヤーの胎内で十ヵ月を過ごす。

[A] 原始聖典

- ①DN.014 “Mahāpadāna-s.” (DN.vol. II p.14) ; 菩薩の常法として、10ヶ月胎内にあるとしている。
- ①MN.123 ‘Acchariyabbhutatthamma-s.’ (希有未曾有法経 vol.III p.122) ; 菩薩の母は菩薩をちょうど10ヶ月間胎内に宿して産む (das'eva māsāni Bodhisattam Bodhisattamātā kucchinā pariharitvā vijāyati) 。
- ②長阿含002「遊行経」(大正01 p.016上) ; 菩薩二足尊 百福相已具 始入母胎時 地則為大動。十月処母胎 如龍臥茵蓐 初從右脇生 時地則大動。
- ⑦四分律「受戒捷度」(大正22 p.782中) ; (定光菩薩) 至十月満已生一男兒。端正無比世之希有。始生在地無人扶持、自行七步而説此言。我於天上世間最上最尊我当度一切衆生生老病死苦。
- ⑦四分律「雜捷度」(大正22 p.950中) ; (釈尊の前世の慧灯王) 十月満已生一男兒。
- ⑩根本有部律「菓事」(大正24 p.060下) ; (賢劫菩薩) 遂於国大夫夫人腹内受胎。……十月満已。当誕子。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.106下) ; 堪任菩薩具足十月処其胎藏而此女人、所其生業往来進止、曾無障礙。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.298上) ; 十月満足往藍毘尼林攀無憂樹枝。暫時佇立便於右脇誕生菩薩。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.052, 南伝28 p.109) ; 他の婦人は十箇月 (dasamāsa) に満たぬか或は〔十箇月を〕過ぎてから、或いは坐り或は臥しながらお産をするが、菩薩の母はそうではなく、彼女は菩薩を十箇月間その胎内に保護して後、立ちながらお産をする。これが菩薩の母の常法である。
- ②修行(大正03 p.463下) ; 十月已満、太子身成。
- ⑥普曜(大正03 p.492中) ; 於是菩薩在胎十月、開化訓誨三十六載諸天人民、使立声聞及諸大乘。
- ⑦方広(大正03 p.549下) ; 云何菩薩世間之宝、最勝清浄殊妙香潔、乃捨兜率处在人間、於母胎中經於十月。
- ⑧LV. (Lef. p.060, 外蘭・梵 p.396, 外蘭・訳 p.794) ; されば、一体何故に、一切世間を超出せる菩薩が、清浄にして臭気なき<衆生の宝>なるにもかかわらず、兜率の天界より下生して、悪臭ある人間の身体に入り、十ヶ月の間、母の胎内に住したるや (…daśamāsān mātuh kuṣau sthita iti) 。
- ⑭過去(大正03 p.624下) ; 菩薩処胎、垂満十月、身諸支節及以相好、皆悉具足。……
- ⑮集経(大正03 p.685中) ; 爾時菩薩聖母摩耶、懷孕菩薩、将満十月、垂欲生時。
- ⑯MV. (vol. II p.018, Jones II p.016) ; すべての菩薩の母は十ヶ月が満ちた時 (pratipūrṇe daśame māse)、出産する。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦(大正50 p.005上) ; 菩薩在胎十月。(出普曜経)
- ①釈迦(大正50 p.015下) ; 菩薩処胎垂満十月。(出因果経)
- ③氏譜(大正50 p.089上) ; 普曜経云。在胎十月、開化三十六載天人、使立三乘聖道。

- ④統紀（大正49 p.142上）；夫人懷孕將滿十月。  
⑤JM. (p.025, 畑中 p.099) ；また「彼女の寿命はいか程であろうか」と観察して、「10ヶ月と7日間（*Dasamāsānaṃ upari sattadivasāni*）」であると知った。  
⑥Bigandet. (vol. I p.033, 赤沼 p.043) ；大摩耶夫人は一挙一動に注意して、十ヶ月の間は、全く。胎内の尊き宝物を安全に護持することのみ骨折られたのである。

【06-01】出胎----ルンビニー園へ

マハーマーヤーが出産のため、デーヴァダハ（*Devadaha*）へ里帰りする途中、ルンビニー（*Lumbini*）園に立ち寄る。

[A] 原始聖典

- ① ‘*Suttanipāta*’ Vs.683 (p.132) ；菩薩は利益・安樂のために人界に生まれられた。釈迦国の *Lumbini* 村で（*Sakyānaṃ gāme janapade Lumbineyye*）。  
① ‘*Apadāna*’ 03-55-543 (p.501) ；*Siddhattha* は世間の安樂のために美しい *Lumbini* の森で生まれられた。  
①根本有部律「菓事」（大正24 p.032上）；至嵐毘尼園世尊復告阿難陀曰。我於此林中亦既生已南行七步不假人扶。觀察四方便作是言。此最後身更不受生。  
①根本有部律「破僧事」（大正24 p.108上）；令摩耶夫人及諸侍從媼女詣藍毘尼園而為遊觀。  
①根本有部律「雜事」（大正24 p.298上）；十月滿足往藍毘尼林攀無憂樹枝。暫時佇立便於右脇誕生菩薩。爾時大地六種震動。放大光明與入胎無異。菩薩生時帝釈親自手承置蓮花上不假扶持足踏七花行七步已、遍觀四方手指上下作如是語。此即是我最後生身、天上天下唯我獨尊。  
②法顯訳「大般涅槃經」（大正01 p.199下）；常在入天受樂果報無有窮盡。何等為四。一者如來為菩薩時、在迦比羅施兜國藍毘尼園所生之處。二者於摩竭提國、我初坐於菩提樹下得成阿耨多羅三藐三菩提處。三者波羅捺國鹿野苑中仙人所住轉法輪處。四者鳩尸那國力士地熙連河側婆羅林中雙樹之間般涅槃處。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.052, 南伝28 p.110) ；この二つの都〔迦毘羅衛とマーヤーの故郷デーヴァダハ（*Devadaha* 天臂）〕の都の中間に、二つの都の人が共に藍毘尼園（*Lumbinivana*）と呼べる沙羅樹の遊苑があった。  
②修行（大正03 p.463下）；到四月七（八=宋元明）日、夫人出遊、過流民樹下。  
⑥普曜（大正03 p.493中）；爾時王后臨産菩薩、承道威神即於初夜起着服飾。將諸侍女往詣王所聽我所言思入園觀……出行遊觀隣鞞樹下。  
⑦方広（大正03 p.552上）；爾時摩耶聖后、以菩薩威神力故、即知菩薩將欲誕生。於夜初分詣輪檀王而説偈言、大王聽我今所請 久思詣彼龍毘園。  
⑧LV. (Lef. p.078, 外蘭・梵 p.430, 外蘭・訳 p.817) ；その時マーヤー（*Māyā*）妃は、菩薩誕生の時の来たれるを知り、夜の初更において、シュッドーダナ（*Śuddhodana*）王のもとに至り、偈をもって語りかけたり。「私の心に久しく園林へ行かんの意思生じたり……」王は……眷属に告げたり。「……秀逸なる美觀を備えたるルンビニー（*Lumbini*）園を嚴飾せよ」  
①仏讚（大正04 p.001上）；藍毘尼勝園 流泉花果茂 寂靜順禪思 啓王請遊彼  
②BC. (01-06) ；冥想するに適した、人里離れた森に行きたいものと思ひながら、彼女はある日色とりどりに美しい木立ちの茂る（財宝の神、クベーラの樂園）チャイトララタのように心愉しき森の奥地、ルンビニーと名づける園に行つて滞在したいと夫王に願ひ出た。

- ⑬行経（大正04 p.058中）；不復樂宮室 意思遊園觀 啓王如是已 王即答之曰 恣卿意所樂 王從將俱出 乃至於流民 清涼花樹園
- ⑭過去（大正03 p.625上）；会遇夫人遣信白王、我今欲出園林遊觀。時王聞此益懷歡喜、即勅於外、令淨掃灑藍毘尼園、更使栽植諸妙花果。
- ⑮集經（大正03 p.685中）；時彼摩耶大夫人父善覺長者、即遣使人、詣迦毘羅淨飯王所(摩訶僧祇師云摩耶夫人父名善覺)、奏大王言。……若彼產出、我女命短、不久必終、我意欲迎我女摩耶、……安止住於嵐毘尼中。……爾時善覺積種大臣、於彼春初二月八日鬼宿合時、共女摩耶相隨、向彼嵐毘尼園。
- ⑯MV. (vol. II p.018, Jones II p.016)；シャカ族のスプーティ (Subhūti) は早速ルンビニー (Lumbini) 園を掃除させ花を飾り香水をまいて準備をさせた。マーヤー (Māyā) 夫人は友人に取り囲まれてこの園に入り、イチジクの樹の枝に腕をかけた。
- ⑰衆許（大正03 p.939中）；爾時摩賀摩耶告淨飯王、我今思於園苑住止。王即告彼酥鉢囉沒駄王、汝女摩賀摩耶樂住園苑。酥鉢囉沒駄王即遣工人大興宮繕、……名龍弭禰園。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.005中）；王后臨産……出遊憐鞞樹下。（出普曜經）
- ①釈迦（大正50 p.015下）；淨掃灑藍毘尼園……。〔出因果經〕
- ③氏譜（大正50 p.089上）；普曜經云。時王思惟懷妊將滿、作此念時夫人白王、欲往園觀即勅莊嚴、藍毘尼園花果泉池。
- ④統紀（大正49 p.142上）；其父善覺遣使白王。我女懷藏聖胎威德甚大、慮產子後女命不久、欲迎止嵐毘園中尽父子情。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.034, 赤沼 p.047)；出産の時が漸やく近づいて来たので、夫人は夫の王に向って天與城 (Dewaha) に帰り、友達や親戚の間に優遊したいということを願われた。……この兩國の間には丈の高い沙羅樹の大きな森が、広く拡がっている……。

【06-02】出胎——三十二種の瑞兆

菩薩が生まれようとするとき、世間に光明が満ち、陸地に蓮華が生じるなどの32種の瑞兆が現れる。

[A] 原始聖典

- ④雜阿含604（大正02 p.166下）；王問神言、仏生有何瑞応。神答言、我不能宣説妙勝諸事。今略説少分、光明能徹照 身體具相好 令人喜樂見 感動於天地。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.051, 南伝28 p.108)；(入胎時)菩薩が母胎に宿されると同一瞬時に、一万世界は悉く震い揺ぎ動き、三十二種の前兆が現れた。
- ①NK. (vol. I p.054, 南伝28 p.113)；(誕生時)そして胎内に宿られた時のように、〔菩薩が〕生れ出られる時にも、三十二の前兆が現れた。
- ②修行（大正03 p.464上）；(宮参りの後)於是還宮。天降瑞応、三十有二。
- ④瑞応（大正03 p.473下）；(誕生後)当此日夜、天降瑞応、有三十二種。
- ⑤異出（大正03 p.618上）；(誕生時)太子生時、上至三十三天下至十六泥犁、傍行八極、萬二千天地、皆為大明、天地為之振動。……

- ⑥普曜（大正03 p.492下）；（誕生前）満十月已、菩薩臨産之時、先現瑞応三十有二。
- ⑦方広（大正03 p.551中）；（誕生前）菩薩処胎満足十月将欲生時、輪檀王宮先現三十二種瑞相。
- ⑧LV. (Lef. p.076, 外蘭・梵 p.428, 外蘭・訳 p.816)；（誕生前）十ヶ月を過ぎて、菩薩誕生の時が近づくや、シュッドーダナ王の園林において、三十二相の前兆が出現せり。
- ⑨僧伽（大正04 p.122下）；若菩薩從兜術天降神時、有大光明照世間界、是智慧光明相初瑞応。……若菩薩初生時举足行七歩、此七覚意之瑞応。
- ⑭過去（大正03 p.625中）；（誕生後）当爾之時、所感瑞応、三十有四。
- ⑮集経（大正03 p.687中）；此是菩薩希奇之事、未曾有法、……此是如来往先瑞相。

### [C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.005上）；菩薩臨産先現瑞応三十有二。（出普曜経）
- ①釈迦（大正50 p.016中）；当爾之時、所感瑞応、三十有四。（出因果経）
- ③氏譜（大正50 p.089下）；爾時瑞応又降三十有四。文多不述。
- ⑤JM. (p.026, 畑中 p.101)；生まれた瞬間に、彼に32の前相があらわになった。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.039, 赤沼 p.053)；嘗て懐胎の時に、三十二の異相が顯われたように、今この降誕の時にも、同数の異相が顯われた。

### 【06-03】 出胎——誕生

マハーマーヤーが沙羅樹（あるいは無憂樹）の枝を取ったとき、菩薩が右脇から生れる①。

### [A] 原始聖典

- ①DN.014 ‘Mahāpadāna-s.’（大本経 vol. II p.014）；菩薩の母は菩薩を立てて産む（*ṭhitā va Bodhisattaṃ Bodhisatta-mātā vijāyati*）、これは決まった法である。
- ①MN.123 ‘Acchariyabbhutatthamma-s.’（希有未曾有法経 vol. III p.122）；菩薩の母は立てて菩薩を産む（*ṭhitā Bodhisattaṃ Bodhisattamātā vijāyati*）。
- ①‘Apadāna’ 03-55-543 (p.501)；Siddhatthaは世間の安樂のために美しいLumbinīの森で生まれられた。
- ②長阿含002「遊行経」（大正01 p.016上）；菩薩二足尊 百福相已具 始入母胎時 地則為大動。十月処母胎 如龍臥茵蓐 初從右脇生 時地則大動
- ④雜阿含604（大正02 p.166下）；（時尊者举手指）摩耶夫人所攀樹枝。
- ⑪根本有部律「破僧事」（大正24 p.108上）；見一無憂樹花葉滋茂。夫人欲生太子、便手攀其樹枝。……夫人即生。……菩薩生時大地振動、天地光明乃至日月所不及処、皆令明徹、其中衆生皆得相見。各相謂言、非唯我身独在此処生。亦有余人共在此処。一切菩薩有常法式。從胎出時、無諸濃血及余穢惡。其菩薩母欲産之時、不坐不臥攀樹而立、無諸苦惱後有、菩薩常法。生已在地。無人扶侍而行七歩、觀察四方便作是言。此是東方、我是一切衆生最上。此是南方、我堪衆生之所供養。此是西方、我今決定不受後生。此是北方、我今已出生死大海。
- ⑪根本有部律「雜事」（大正24 p.298上）；十月満足往藍毘尼林攀無憂樹枝。暫時佇立便於右脇誕生菩薩。爾時大地六種震動。放大光明與入胎無異。菩薩生時帝釈親自手承置蓮花上不假扶侍足踏七花行七歩已、遍觀四方手指上下作如是語。此即是我最後生身、天上天下唯我独尊。
- ⑫法天訳「七仏経」（大正01 p.153上）；彼菩薩摩訶薩右脇生時大地震動……。
- ⑫白法祖訳「仏般泥洹経」（大正01 p.165中）；菩薩從右脇生時、天地為大動。
- ⑫法顕訳「大般涅槃経」（大正01 p.191下）；菩薩初生、從右脅出、故大地動。



- \*②長阿含001「大本經」（大正01 p.004中）；諸仏常法、毘婆尸菩薩當其生時、從右脇出、專念不亂。時菩薩母手攀樹枝、不坐不臥……。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.052, 南伝28 p.110) ; 妃は王者らしい沙羅樹 (sāla) の下に行き、沙羅樹の枝を捉えたいと思った。〔すると〕沙羅樹の一枝が、湿気を加えた蘆のように垂れて、妃の手の方へ寄ってきた。妃は手を伸ばしてその枝を捉えると、それと同時に産気を催した。〔そこで〕幕を以て妃を囲み、大勢の者はその場を退いた。沙羅の枝を捉えて立ったまま妃はお産をした。
- ②修行 (大正03 p.463下) ; 十月已滿、太子身成。到四月七日、夫人出遊、過流民樹下。衆花開化、明星出時、夫人攀樹枝、便從右脇生墮地。
- ④瑞応 (大正03 p.473下) ; 到四月八日夜明星出時、化從右脇生墮地。
- ⑤異出 (大正03 p.618上) ; 太子以四月八日夜半時生、從母右脇生墮地。
- ⑥普曜 (大正03 p.494上) ; 爾時菩薩從右脇生。
- ⑦方広 (大正03 p.553上) ; 滿足十月、從母右脇安詳而生。正念正知而無染着。
- ⑧LV. (Lef. p.083, 外蘭・梵 p.440, 外蘭・訳 p.821) ; 実にまた、菩薩は、母の胎に在りし時、かくの如き種類の神通變現を具足せり。〔すなわち〕彼は、十カ月を満ち終つて、母の右脇より、正念正知にして子宮の垢に染汚せられることなくして生まれたり。
- ⑨僧伽 (大正04 p.122中) ; 欲出於家、大尊妙神天子、皆悉扶持胎淨無惱。若举足行七步。
- ⑩十二 (大正04 p.146下) ; 調達以四月七日生。仏以四月八日生。仏弟難陀四月九日生。阿難以四月十日生。
- ⑪仏讚 (大正04 p.001上) ; 時四月八日 清和氣調適 齋戒修淨徳 菩薩右脇生
- ⑫BC. (01-09) ; プシュヤの星座がひときわ澄んできたとき (prasannaś ca babhūva puṣyas) 、この精進潔斎していた王妃の脇腹よりいささかの陣痛もまた患いもなく人の世を利益せんために男子が誕生したのであった。
- ⑬行經 (大正04 p.058中) ; 于時仏星 適與月合 吉瑞応期 從右脇生
- ⑭過去 (大正03 p.625上) ; 於二月 (四=宋元明) 八日日初出時、夫人見彼園中、有一大樹、名曰無憂。花色香鮮、枝葉分布、極為茂盛。即舉右手、欲牽摘之、菩薩漸漸從右脇出。
- ⑮集經 (大正03 p.686上) ; 爾時善覺釈種大臣、於彼春初二月八日鬼宿舍時、共女摩耶相隨、向彼嵐毘尼園。……爾時菩薩、見於其母摩耶夫人、立地以手攀樹枝時、在胎正念、從座而起。……是時摩耶立地以手執波羅叉樹枝訖已、即生菩薩。
- ⑯MV. (vol. II p.020, Jones II p.018) ; 菩薩の母は普通の女性のように横になつたり座つたりして出産せず、立ったままで出産する。菩薩は母の右脇から何らの害を与えることなく生まれ出る。
- ⑰衆許 (大正03 p.939中) ; 時摩賀摩耶……同往園内……以右手攀彼樹枝欲生太子。……天主復自化身為一老母。在夫人前欲収太子。是時太子初出母胎。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.005中) ; 爾時菩薩從右脇生。(出普曜經)
- ①釈迦 (大正50 p.016上) ; 十月滿足。於四月八日日初出時、……菩薩漸漸從右脇出。(出因果經)
- ②歴代 (大正49 p.023上) ; 仏以莊王九年癸巳四月八日、現白象形從兜率降中天竺国迦毘羅城淨飯大王第一夫人摩耶右脇。
- ③氏譜 (大正50 p.089中) ; ……經云。十月滿足、於四月八日日初出時、於無憂樹下花葉茂盛。

便举右手欲牽摘之、菩薩漸漸從右脇出

- ④統紀（大正49 p.142上）；二十六年(甲寅)……夫人懷孕將滿十月。……往藍毘尼園中。十月滿足。四月八日。日初出時。……菩薩漸漸從右脇出。
- ⑤JM. (p.026, 畑中 p.101)；菩薩を10カ月間母胎で保護し、ヴィサーカー星宿に満月が宿るヴィサーカー月の満月の日に (Visākhapuṇṇamāyaṃ Visākhanaakkhattena) 出産した。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.035, 赤沼 p.049)；摩耶夫人は妹の波闍波提とつれ添うて床によりかかり、自ら指示した一本のエンジン樹 (Engyin) の傍へ床を運ぶ様に命ぜられた。……夫人は静かに床を立ち上り、……小さな若枝を取ってポキと折り給うた。……その時、急に産気がついて太子が降誕し給うた。

(1) 誕生の月日については本「モノグラフ篇」第1号のp.132を参照されたい。

【06-04】出胎——「天上天下唯我為尊」と宣言する

菩薩は誕生するや、四方（あるいは十方）に7歩歩き、「天上天下唯我為尊」と宣言する。

[A] 原始聖典

- ①DN.014 'Mahāpadāna-s.' (大本経 vol. II p.014)；菩薩は生まれると、北方に七歩歩き、一切の方角を眺めて、「私は世間で最高のものである……」というのは、決まった法である。
- ①MN.123 'Acchariyabbhutatthammas-s.' (希有未曾有法経 vol. III p.123)；生まれた菩薩は七歩歩き、「私は世間で最上の者、世間で最勝の者、世間で最高の者、これが最後の生であり、もはや後有はない (agga 'ham asmi lokassa, setṭho 'ham asmi lokassa, jetṭho 'ham asmi lokassa, ayam antimā jāti, na'tthi dāni punabbhavo.)」といわれた。
- ③中阿含032「未曾有経」（大正01 p.470中）；世尊初生之時即行七歩、不恐不怖亦不畏懼。
- ④雜阿含604（大正02 p.166下）；神以偈答曰、我見相好身 生時二足尊 举足行七歩 口中有所說 於諸天人中 我為無上尊
- ⑦四分律「受戒毘度」（大正22 p.782中）；（定光菩薩）至十月滿已生一男兒。端正無比世之希有。始生在地無人扶侍、自行七歩而說此言。我於天上世間最上最尊、我當度一切衆生老病死苦。
- ⑩根本有部律「藥事」（大正24 p.032上）；至嵐毘尼園世尊復告阿難陀曰。我於此林中亦既生已南行七歩不假人扶。觀察四方便作是言。此最後身更不受生。
- ⑩根本有部律「破僧事」（大正24 p.108上）；菩薩常法生已在地、無人扶侍而行七歩、觀察四方便作是言。此是東方我是一切衆生最上。此是南方我堪衆生之所供養。此是西方我今決定不受後生。此是北方我今已出生死大海。
- ⑩根本有部律「雜事」（大正24 p.298上）；菩薩生時帝釈親自手承置蓮花上不假扶侍足踏七花行七歩已。遍觀四方手指上下作如是語。此即是我最後生身、天上天下唯我獨尊。
- \*②長阿含001「大本経」（大正01 p.004中）；諸仏常法、毘婆尸菩薩當其生時、從右脇出專念不亂、從右脇出墮地行七歩、無人扶持遍觀四方、举手而言、天上天下唯我為尊、要度衆生老病死。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.053, 南伝28 p.112)；それから七歩目に立ち止まって「我は世界の第一人者である」等巖かな声を出して師子吼された。
- ②修行（大正03 p.463下）；行七歩、举手而言。天上天下、唯我為尊。
- ④瑞応（大正03 p.473下）；即行七歩、举右手住而言。天上天下、唯我為尊。

- ⑤異出（大正03 p.618上）；行七歩之中、举足高四寸、足不踏地、即復挙右手言。天上天下、尊無過我者。
- ⑥普曜（大正03 p.494上）；行七歩顕揚梵音、無常訓教。我当救度天上天下為天人尊。
- ⑦方広（大正03 p.553上）；不假扶持即便自能東行七歩、……又於南方而行七歩、……又於西方而行七歩、作如是言。我於世間最尊最勝。……又於北方而行七歩、作如是言。我当於一切衆生中、為無上上。
- ⑧LV. (Lef. p.084, 外蘭・梵 p.444, 外蘭・訳 p.823)；菩薩は〔まず〕東方（pūrva）に向かつて七歩を進めたり。……南方（dakṣiṇa）……西方（paścima）に向かつて七歩を進め……「われは世間において最尊なり……」……北方（uttara）に向かつて七歩を進めたり、「一切衆生の中において、無上なる者（anuttara）とならん」
- ⑨僧伽（大正04 p.122下）；菩薩初生時举足行七歩。此七覺意之瑞応。
- ⑩仏讃（大正04 p.001中）；安庠行七歩 …… 堪能如是説 此生為仏生 則為後辺生 我唯此一生 当度於一切
- ⑫BC. (01-14・15)；すると、七仙星宿（大熊座）にも似たこの幼子は、（たちまちにして）堂々たる七歩を踏み出したのであったが、その歩調たるやたじろぐことなく、大地をしっかりと抑えてはつぎに正しく上げられ、（大地を）砕かんばかりで、一股の幅は広大な濶歩であった。……「われこそはそとりを開くため、ひいては人の世を利益せんために生まれきたったものである。そして、私の輪廻の世界における生起はこれが最後である」と宣言して、……慶賀すべき約束事を予示する言辭を吐いた。
- ⑬行經（大正04 p.059上）；故行七歩 如師子起 …… 如師子吼 吾齊以此 末後受形 不復処在 胞胎之獄 今当得仏 最難得道 將導一切
- ⑭過去（大正03 p.625上）；無扶侍者、自行七歩、挙其右手而師子吼。我於一切天人之中最尊最勝。無量生死、於今尽矣、此生利益一切人天。
- ⑮集經（大正03 p.687中）；菩薩生已、無人扶持、即行四方、面各七歩。…… 正語正言。世間之中。我為最勝。我從今日。生分已尽。
- ⑯MV. (vol. II p.024, Jones II p.021)；それから、釈迦族の家系に（kule śākiyānām）生れるや否や、しっかりとした足取りで、ここに七歩を歩み、諸方角を見渡して、笑った。「これが、今や、一度きりの、最後の誕生である」と。（ayaṃ dānim eko bhavo paścimo tti）
- ⑰衆許（大正03 p.939中）；於其四方各行七歩。東方表涅槃最上、南方表利樂群生、西方表解脫生死、北方表永斷輪廻。

### [C] 後世の仏伝資料

- ⑥Bigandet. (vol. I p.037, 赤沼 p.051) 菩薩は北方に向かつて七歩を行じ、一つの宣言をなし給うた。「この生は我が最後の生である。私には最早、他の存在を受くることはないであろう。私はすべてのものの中に於て最も偉大なるものである」。

#### [06-05] 出胎----「サルヴァールタシッダ」と命名される

菩薩が生れて一切の事柄が成就したので、サルヴァールタシッダ（Sarvārthasiddha、「悉達」「一切義成」）と命名される。

### [A] 原始聖典

- ⑥増一阿含24-04（大正02 p.623上）；如来初生時 天地普大動 誓願悉成辦 今日号悉達

- ⑥増一阿含45-01（大正02 p.769中）；我聞、真淨王子名曰悉達。出家學道有三十二大人之相八十種好。彼若當在家者便當為轉輪聖王。若出家學道者便成仏道。
- ⑪根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」（大正23 p.908中）；是時釈梵大王與諸天衆百千圍繞、恭敬尊重親事菩薩。又諸王都城邑聚落一切長者婆羅門等、咸為瞻仰禮事菩薩普皆雲集。于時淨飯王作如是念。以我宿福之所招感、今有聖子來生我家、又能成就一切勝事。宜與我子名一切事成。
- ⑪根本有部律「破僧事」（大正24 p.108中）；菩薩生時、五百宮人各生一男、謂贊鐸迦而為上首。五百宮人各生一女、旃尼而為上首。五百大臣各生一男、騸陀夷而為上首。有五百象各生一子、報灑陀子而為上首。五百馬各生一子、馬囉呵馬子而為上首。五百寶藏自開出現。四方諸國王等悉皆降伏、常獻種種雜物而來奉事。爾時大臣見是相已、來白大王。王聞此事便深思念。我今此子成就一切諸善事業、因此大王号此太子、名為成就一切事。是故菩薩初得此名。
- ⑪根本有部律「雜事」（大正24 p.298中）；大臣見已白淨飯王曰。大王今日國祚興隆、王子誕生嘉瑞咸應、五百侍男五百侍女、上象上馬各生五百、五百伏藏自然開現、諸國朝賓奇珍總集。王聞告已心大欣躍。告大臣曰。太子生後諸事皆成、宜與立字名一切事成(梵云薩婆頹他悉陀)此是菩薩最初立字、号一切事成。
- \* ‘siddhattha’ が釈尊をさす呼称として用いられている。① ‘Apadāna’ pp.055, 056, 064, 078, 079, 090, 098, 101, 114, 126, 133, 135, 136, 137, 140, 141, 172, 182, 185, 192, 198, 200, 205, 206, 208, 212, 219, 223, 224, 228, 230, 232, 235, 239, 240, 241, 251, 252, 253, 254, 256, 256, 257, 258, 261, 265, 267, 293, 373, 377, 395, 401, 404, 408, 419, 425, 501, 507, 513

## [B] 仏伝經典

- ②修行（大正03 p.463下）；於時集至梵志相師、普稱萬歲、即名太子、号為悉達(漢言財吉)。
- ④瑞應（大正03 p.474上）；字名悉達。
- ⑤異出（大正03 p.618上）；名為悉達。
- ⑦方廣（大正03 p.555上）；作是念言。我子生已、一切事物皆悉增長成就。我當與子名薩婆悉達多。
- ⑧LV. (Lef. p.095, 外蘭・梵 p.466, 外蘭・訳 p.833)；かくの如く、實に、シュッドーナ王の利益事として望まれたるところの、それらすべてが円満成就せり。それから、シュッドーナ王に、かくの如き思いが生じたり、「われは王子の命名を如何にすべきや？」と。而して、彼に、かくの如き思いが生じたり、「この子が生まれるや否や、われに一切の利益事が成就せり。故に、われは、この〔王子の〕名をサルヴァールタシッダ(一切利益事成就)となさん。」
- ⑩十二（大正04 p.146下）；白淨王有二子。其大名悉達。其小子名難陀。菩薩母名摩耶。難陀母名瞿曇彌。
- ⑪仏讚（大正04 p.004中）；以備衆德義 名悉達羅他
- ⑫BC. (02-17)；(王子が誕生して以來)王家の繁榮と一切のことの成就かくのごとくであったから、王は「彼こそサルヴァールタシッダ(Sarvārthasiddha 一切のことの成就者)である」といつて(このように)この息子の名前をつけた。
- ⑬行經（大正04 p.060上）；王告諸大衆梵志曰 今當為子 因德立字 …… 當名太子 号曰吉財
- ⑭過去（大正03 p.626中）；抱太子出。……以此義故、當名太子為薩婆悉達。
- ⑮集經（大正04 p.700上）；我於爾時、將是童子、入於宮殿、覆復思惟。今我童子、作何名也。我更思惟。其生之日、我一切利、自然而成、我時知已、便作名字、号悉達多。
- ⑯MV. (vol. II p.026, Jones II p.023)；この世界の師が生れた時、王のすべての事柄が成功

- した。そこで、人々の恩恵であるこの童子は一切事成就（*Sarvārthasiddha*）と名づけられた。
- ⑰衆許（大正03 p.939下）；爾時淨飯王見此祥瑞種種殊勝。……応為立号名一切義成。
- \* ‘*siddhattha*’ が釈尊をさす呼称として用いられている。①NK. vol. I, pp.056, 058, 059, 060, 061, 066, 071, 072, 073, 074, 075, 077, 088, 089

### [C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.017中）；抱太子出……以此義故。当名太子為薩婆悉達。（出因果經）
- ③氏譜（大正50 p.089下）；經云。王欲立名、広請婆羅門集已、抱太子出請為作名。即共通論云。太子生時、宝藏皆現諸瑞吉祥、可立名為薩婆悉達。
- ④統紀（大正49 p.142中）；王召諸婆羅門。當為太子作何等名……当名薩婆悉達（此云一切義成又名頓吉）。
- ⑤JM. (p.027, 畑中 p.102) ；5日目に（*pañcame divase*）、人々は菩薩を命名するに、あらゆる世間の目的の達成を遂行することにより、*Siddhattha*という名前を与えた。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.047, 赤沼 p.062) ；この王子がすべての有情の平安と徳とを増進し給う方であるというのには一致したので、一切義成という意味の悉達多（*Theiddat*）と名づけ奉った。

#### 【06-06】出胎——「天中天」の異名

菩薩が天祠に参詣したとき、天神が菩薩を礼拝したので、「天中天（*devadeva*）」とも名づけられる（あるいは、自ら号す）(1)。

### [A] 原始聖典

- ④雜阿含604（大正02 p.166下）；將王至天寺中。語王言。太子生時令向彼神禮、時諸神悉禮菩薩。時諸民人為菩薩立名今是天中天。
- ⑩根本有部律「破僧事」（大正24 p.108下）；時釈迦牟尼菩薩、至藥叉廟所。彼釈迦增長藥叉。遙見菩薩漸近廟所、即從座起五體投地頂禮菩薩。衆人見已甚大驚怪即往淨飯王所自言。大王。今藥叉神遙見太子從廟而出頂禮双足。時王聞已甚大歡喜、作如是言。若天神禮拜太子故、知是天中天。以此緣故号為天中天。
- ⑪根本有部律「雜事」（大正24 p.298中）；是時菩薩乘四宝輿、無量百千人天翊從入劫比羅城。諸釈迦子體懷憍慢立性多言。菩薩入城皆悉默然牟尼無語王見是已報諸臣曰。諸釈迦子體懷傲慢立性多言、太子入城皆悉默然牟尼無語、應與太子名曰釈迦牟尼。此是菩薩第二立名。時此城中有旧住藥叉名釈迦增長。時人敬重立廟祠祀。但是釈種生男女已、令淨澡浴抱至藥叉処而申敬禮。時淨飯王以上酥蜜滿太子口。告大臣曰。可抱太子往禮藥叉、大臣抱至。時彼藥叉遙見太子即自現身。至菩薩所頂禮其足。臣歸白王。王聞是已生希有心。今我太子於天神中更為尊勝、應與立字名天中天。此是菩薩第三立名
- \* ‘*devadeva*’ という言葉が多く過去の過去仏の称号として使われている。① ‘*Apadāna*’ pp.020, 032, 096, 104, 326, 410、① ‘*Buddhavamsa*’ pp.042, 045, 062
- \* 釈迦牟尼という別名も付けられたという。⑩根本有部律「破僧事」（大正24 p.108下）；時淨飯王作思念曰。此住劫比羅城諸釈種等。性懷熾烈心意兇暴、多起人我堅鞭惡性。彼見太子入城。皆如牟尼默然而住、以此緣故可呼太子名為釈迦牟尼。

### [B] 仏伝經典

- ②修行（大正03 p.463下）；時未至城門、路側神廟一國所宗。梵志相師咸言、宜將太子禮拜神像、即抱入廟、諸神形像、皆悉顛覆。……咸稱太子、号天中天。
- ⑥普曜（大正03 p.497上）；尊豪諸積成共集会、來至王所、前啓白言。王當知之、宜將太子至於天祠。……以告大愛道、擁護太子將詣天祠。……即說偈言……超天天中天 天無比況勝……。
- ⑦方広（大正03 p.558上）；是時積種耆旧詣輪檀王所、白言。大王、今者可將太子謁於天廟以祈終吉。……告摩訶波闍波提言、欲將太子往於天廟。……爾時菩薩、而說偈言……我是天中天於天中最勝……。
- ⑧LV. (Lef. p.118, 外蘭・梵 p.508, 外蘭・訳 p.869) ; その時、また、シャーキヤ (Śākya) 族の〔男女の〕長老たちは、一緒に集まりて、シュッドーダナ (Śuddhodana) 王に……。シュッドーダナ王は自らの宮殿に入りて、マハープラジャーパティ・ガウタミー (Mahāprajāpatī Gautamī) に……。王子は微笑を浮かべ、破顔一笑して、姨母に偈をもって告げたり。「……われは〈天中の天 (devātideva) 〉にして、一切の天神を凌駕せり。……」
- ⑩行經（大正04 p.059下）；將詣天祀 欲令拜謁 諸天形像 天像皆起 屈申低仰 諸有金石 水泥天像 叉手稽首 禮敬菩薩 …… 緣是瑞應 号天中天
- ⑭過去（大正03 p.626上）；時白淨王及諸積子、未識三宝、即將太子、往詣天寺。太子既入、梵天形像、皆從座起、禮太子足而語王言。大王當知、今此太子天人中尊……。
- ⑮集經（大正03 p.692上）；時迦毘羅去城不遠、有一天祠、神名增長。……爾時乳母、抱持菩薩、詣彼天祠。時更別有一女天神、名曰無畏。彼女天像、從其自堂、下迎菩薩、合掌恭敬。……爾時迦毘羅城、有諸積種五百大臣、……造立五百精舍、擬菩薩坐。當於菩薩初入城時、各各立在自家門前、……而作是言。願天中天、入我精舍。
- ⑯MV. (vol. II p.026, Jones II p.022) ; シュッドーダナ (Śuddhodana) 王は大臣に命じた。「さあ、釈迦 (Śākya) 族の力であるこの子供を宮へ連れていき、アバヤー (Abhayā) 女神の足元に拝礼させよ。」しかし神前に来たとき、この子が前に向けたのは頭でなく足であり、アバヤー女神がその頭を子供の足に下げたのであった。
- ⑰衆許（大正03 p.940上）；復次迦毘羅城有夜叉神、名舍迦嚕駄囊。若諸衆生所有男女初生之後。將詣神廟令拜夜叉求其守護。時淨飯王亦令太子乘四寶車詣彼神祠、將至廟庭夜叉出迎拜於車前。淨飯王曰。天神至尊禮重菩薩、應為立号名為天子。

### [C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.006上）；王告大愛道、擁護太子將詣天祠。（出普曜經）
- ③氏譜（大正50 p.089下）；經云。時白淨王將禮天神、……隨從入城往詣天祠。梵天形像皆從座起、禮太子足言。此太子者天人中尊、如何今欲禮於我耶。
- ④統紀（大正49 p.142中）；隨從入城將詣天祠。梵天形像皆起禮足而言曰。今此太子天人中尊。云何來此欲禮於我。

(1) [B] の⑥⑦⑧はこれをアシタ仙人の予言の後とする。

#### 【06-07】 出胎----アシタ仙人の予言

アシタ (Asita) 仙人 (カーラデーヴァラ Kāḷadevala) が32相・80種好を占って菩薩が輪聖王とならずに仏となることを予言し、甥のナーラカ (Nālaka) に仏の弟子となることを勧めて死ぬ。

### [A] 原始聖典

- ①DN.014 ‘Mahāpadāna-s.’ (大本經 vol. II p.016) ; 3 2相を具えた菩薩が生まれると占相バラモンが転輪聖王か仏になると占うのは、決まった法である。
- ① ‘Suttanipāta’ Vs.689~ (p.134) ; 結髪のKaṇhasiri (アシタ) 仙人は成仏して、法輪を転じるであろうと予言し、甥のナーラカ (Nālaka) に遺言し、仏の成道を聞いたならば、直ちに仏に就いて梵行を修せよと命じた。
- ⑦四分律「受戒捷度」(大正22 p.779中) ; 北方国界雪山側積種子、生処豪族父母真正、衆相具足。適生已時、諸相師婆羅門、皆共占相、記言。大王、此兒有三十二大人之相。有此相者、必趣二道……。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.106上) ; 相師阿夷知菩薩成仏。当在波羅捺国仙人鹿苑中轉于法輪。又念。我命過後諸弟子中那羅摩納当紹繼我。我之供養悉当属彼。彼必貪著無復憶仏出興世意。我今寧可於鹿苑辺為立舍宅。教令日日三念仏当出世。若出世時汝当於彼淨修梵行。念已即為立宅。如念教之。阿夷不久便命過。那羅果得供養貪著心深。都不復憶仏当出世。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.716上) ; 于時四方有大名称、云釈迦族生太子。在雪山辺分鹽河側劫比羅仙人所住之處。去斯不遠有婆羅門仙人。名阿私多、善解占相。王召觀察。授記有二種瑞、若在家者……。
- ⑩根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.947下) ; 在雪山辺分鹽河側劫比羅仙人所住之處、去斯不遠有婆羅門仙人名阿私多、善解占相。王召觀察授記。有二種瑞、若在家者……。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.108上) ; 爾時阿私陀仙在吉悉枳迷山石窟之中。彼仙恒知一切世間興衰之相。其仙有一外甥名那羅陀。……時阿私陀仙既知太子必成正覺。即自觀身寿命長短。我今此生得見菩薩證菩提不。既諦觀已、即觀菩薩十九出家、六年苦行獲甘露果。復知己身先時殞歿不逢菩薩度人說法、便自悲傷啼泣懊惱。……時阿私陀仙說此頌已便即命終。爾時弟子那羅陀以種種如法供具、隨時殯葬已。便詣波羅痾斯城於彼而住、與五百摩納薄伽。為其教示婆羅門薛陀呪。其那羅陀為是迦旃延姓、因号迦旃延。若釈迦菩薩当成正覺、迦旃延詣於仏所。彼仏即喚大迦旃延而便以法教示。令彼度生死大苦海、住於最上寂靜究竟涅槃。遂以名之為大迦旃延。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.299上) ; (阿私陀) 仙人遍觀見成仏相已、復更觀察久近当得無上甘露轉妙法輪、遂見二十九年捨王城去、六年苦行当成正覺。復觀自身得幾時住得見仏不、知不見仏便生憂惱涕淚盈目。……爾時阿私多仙命終之後弟子那刺陀如法焚燒、殯葬事訖割捨憂感。遂詣婆羅痾斯於諸仙内而共住止。其那刺陀先是迦多演那種族時人因号迦多演那仙人、衆皆敬重。
- \*②長阿含001「大本經」(大正01 p.004下) ; 太子(毘婆尸菩薩) 初生、父王繫頭召集相師及諸道術、令觀太子、知其吉凶。時諸相師受命而觀、即前披衣見有具相、占曰。有此相者、当趣二処……。

## [B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.054, 南伝28 p.114) ; カーラデーヴァラ (Kāḷadevala アシタ) という行者が……三十三天に上り、(浄飯大王に王子誕生の話聞き、急いで天人の世界を下り、王宮に入り、王子を礼拝した。) ……菩薩の相好の完全に具わっているのを見て……「必ず仏となられるであろう」と知り……。
- ①NK. (vol. I p.055, 南伝28 p.116) ; (ナーラカ [Nālaka] 少年に) 「……このお方は仏の種子で、今から三十五年経つと仏となられるであろう。おまえはそれに遇うことができるのだから、今日只今から出家しなさい」と云った。
- ②修行(大正03 p.464上) ; 於是香山有道士名阿夷。中夜覺天地大動……阿夷念言、世間有仏、応現此瑞。……歩詣宮門。……於是侍女、抱太子出、欲以太子向阿夷禮。阿夷便驚起、前禮太子足。国王及群臣、見国師阿夷敬禮太子、心便悚然、益知至尊。
- ④瑞応(大正03 p.474上) ; 王告夫人。子生非凡、吾国有道人、名曰阿夷、年百余歳、耆旧多識、

明暁相法、今欲共行相子可乎。夫人曰佳。……出詣道人。

- ⑤異出（大正03 p.618上）；明日王與夫人議。吾子生不與人同、国中有大道人、年百余歳、大工相人、字為阿夷、寧可俱行相太子。夫人曰、大善。王與夫人、共行到道人所。
- ⑥普曜（大正03 p.495中）；王会釈種欲試問之。今者太子当作国主、若当出家、欲決此疑。衆釈啓曰。窃聞雪山有仙梵志、名阿夷頭、耆旧多識明暁相法。……欲詣道人。
- ⑦方広（大正03 p.556中）；時輪檀王又與釈種共集議論。我此太子為作轉輪聖王、為当出家成仏道也。時有五通神仙名阿斯陀與外族那羅童子、居雪山中。……時阿斯陀仙與那羅童子、……詣輪檀王宮立於門下。……王之太子必定不作轉輪聖王。
- ⑦方広（大正03 p.557下）；是時仙人語童子言。不久有仏出興於世、汝当往詣求請出家、於長夜中得大利益。
- ⑧LV. (Lef. p.100, 外蘭・梵 p.476, 外蘭・訳 p.838)；それから、シュッドーダナ (Suddhodana) 王はすべてのシャーキヤ (Śākya) 族衆を招集してかくの如く談義せり。「一体、この王子は轉輪聖王とならんや。あるいはまた、遊行すべく出家せんや」〔と〕その時、山の王たる雪山の中腹に、アシタ (Asita) と名づける大仙人がありて、……甥のナラダッタ (Naradatta) と共に居住せり。……大仙人アシタは……シュッドーダナ王の宮殿の門前に立てり。
- ⑧LV. (Lef. p.108, 外蘭・梵 p.490, 外蘭・訳 p.845)；それからまた、大仙人アシタ (Asita) はナラダッタ (Naradatta) 童子にかくの如く言えり。「ナラダッタよ、汝が『仏陀、世間に出現せり』と聞くことあらば、その時、汝は行って、彼 (仏陀) の教えのもとにて出家学道せよ。それは、汝に長夜 (長久) にわたる富と利益と安楽とをもたらずべし。」〔と〕
- ⑩仏讚（大正04 p.002下）；時近処園中 有苦行仙人 名曰阿私陀 善解於相法 来詣王宮門 王謂梵天応 苦行樂正法 此二相俱現 梵行相具足
- ⑫BC. (01-49)；さて、偉大なる聖者アシタはこれらもろもろの吉兆より……シャカ (Śākya) 族の王の館にやってきた。……けだしこの子は、(執着の対象となるべき) 王位を捨て、(感官の対象や) 領土 (拡大) については顧るところなく、激しい努力によって真理を窮め、人の世における迷妄の闇を払わんため、知よりなる太陽となって燃え上がり、光り輝くであります。
- ⑬行経（大正04 p.060中）；衆山少及者 故名阿夷岳 曩久居此山 年耆結族髮 長暴露形體 寿高百有余 …… 自暴名阿夷 …… 欲見釈童子 …… 便到王宮門 …… 見太子徳相
- ⑭過去（大正03 p.626中）；爾時白淨王普勅群臣、令訪聡明多聞、智慧善知占相。……爾時群臣、得五百婆羅門聡明知相見諸奇瑞。……婆羅門言……、若当出家成一切種智、若在家者為轉輪聖王領四天下。
- ⑭過去（大正03 p.627上）；爾時仙人 (阿私陀) 又答王言。……若在家者、年二十九、為轉輪聖王、若出家者、成一切種智。
- ⑮集経（大正03 p.693中）；爾時有一阿私陀仙、在三十三天上安居。(仏誕生を聞きし) 爾時復有説如是言、南天竺地、有一城名優禪耶尼、……更有一山、名阿私陀。是時仙人、於彼山居。……即称仙人、名阿私陀。……將一侍者、名那羅陀、從彼山中、隱身来此迦毘羅城、……到宮門前。
- ⑮集経（大正03 p.700上）；阿私陀仙、語那羅陀童子、作是言。汝那羅陀童子当知、有仏出現於今世間、汝当彼辺、出家学道、修習梵行。久遠之時。大得利益、大得安楽。
- ⑯MV. (vol. II p.030, Jones II p.027)；ウツジェーニー (Ujjeni) の富裕バラモンの子アシタ (Asita) 仙人は、ヴィンディヤ (Vindhya) 山脈の住居に5000人の弟子及びナーラカ (Nālaka) と住んでいた。菩薩誕生の時、彼は大地の震動と大光明を見た。シュッドーダナ (Suddhodana) 王に王子が生まれたことを天眼で知り、この子供を見たいと思い、カピラヴァストゥ (Kapilavastu) に至り、王宮の門に立った。



- ⑰衆許（大正03 p.940下）；爾時曩羅那仙告白本師阿私陀仙人、我今往彼迦毘羅城禮拜菩薩。…步行至城詣淨飯宮。……爾時仙人……如是觀已得見太子。出彼王城入於山野、年二十九、於其山中六年苦行、證甘露滅成無上道。
- ⑱衆許（大正03 p.941下）；爾時曩羅那、姓迦底以姓為名。仏為開示法要得寂滅樂、乃名大迦底。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.005下）；雪山有仙梵志、名阿夷頭……。〔出普曜經〕
- ②釈迦（大正50 p.017下）；有一梵仙名阿私陀。〔出因果經〕
- ③氏譜（大正50 p.090上）；經云。王召善相者五百人、於大宝殿令占太子。咸言出家成仏在家輪王。又曰。香山太仙阿私陀者、……便言至年十九為轉輪王、若出家者成一切智然必成仏說法度人。
- ④統紀（大正49 p.142中）；王訪五百聰明相師令占太子。相師言、若当出家成一切種智、若在家者為轉輪王。相師又言、有一梵仙名阿私陀……在香山中。……阿私陀、遙知王意……相太子已…法定必成一切德智。
- ⑤Bigandet. (vol. I p.040, 赤沼 p.055) ；ここにカーラデーワラ (Kaladewila) と呼ばれて居る有名な仙人があった……「……太子が正しく仏果を開き給うた後の晴々しいお顔を見ることの出来ないのだと思うて……泣いて居るのであります」
- ⑥Bigandet. (vol. I p.042, 赤沼 p.058) ；「ナラカ (Nalaka) よ、……これから三十五年の後に、淨飯王の王子は仏陀となり給う……お前はこれから沙門となってその時を待つて居るがよかろう」。

[06-08] 出胎----三十二相・八十種好

ここには32相・80種好を詳細に掲げる資料のみを紹介する。

[A] 原始聖典

- ①DN.014 'Mahāpadāna-s.' (大本經 vol. II p.016) ；32相とは何か。……
- ②DN.030 'Lakkhaṇa-s.' (vol. III p.142) ；32相を具えた大人 (MahāPurisa) の赴く道は二つである。……
- ③ 'Buddhavaṃsa' 26-24 (p.098) ；32相を具え、勝れた徳を有している身 (ayaṃ guṇavaradeho dvattiṃsalakkhaṇācīto) 。
- ④長阿含001「大本經」(大正01 p.005上) ；是時父王殷勤再三重問相師、汝等更觀太子三十二相、斯名何等。時諸相師即披太子衣、說三十二相……。
- ⑤中阿含059「三十二相經」(大正01 p.493上) ；大人成就三十二相必有二處真諦不虛。……
- ⑥雜阿含604(大正02 p.166下) ；此處菩薩現三十二相八十種好。
- ⑦増一阿含09-03(大正02 p.564中) ；布施成仏道 三十二相具 轉無上法輪 本施之果報
- ⑧根本有部律「波逸底迦082」(大正23 p.874下) ；中有淨飯王、生一太子。具三十二相有八十種好。相師瞻之云。此太子若在家者当為轉輪聖王。七宝円満千子具足、降伏四洲以法化世。若出家者当證如来正等覺、於人天内号曰仏陀。
- ⑨根本有部律「破僧事」(大正24 p.108下) ；王即問曰、何者是其三十二大丈夫相。一者具大丈夫足善安住等案地相。二者……。
- ⑩支謙訳「梵摩滄經」(大正01 p.883下) ；略説其要。絶世之相三十有二。一相足下安平正。…

[B] 仏伝經典

- ④瑞応（大正03 p.474上）；披髮相太子、見有三十二相。軀體金色、頂有肉髻。……
- ⑥普曜（大正03 p.496上）；披髻相太子、見三十二相。軀體金色、頂有肉髻。……
- ⑦方広（大正03 p.557上）；王言、何等名為三十二相。仙言、三十二相者、一者頂有肉髻、……如是之相唯諸仏有、非輪王有。大王聖子、復有八十種好。……八十種好者、一……若人成就如是八十種好、……必当出家……。
- ⑧LV. (Lef. p.105, 外蘭・梵 p.484, 外蘭・訳 p.842)；大王よ……王子は、家の中に居住するにとどまることなかるべし。それは何故か。すなわち、大王よ、サルヴァールタシッダ王子は<三十二の大人の相>を具足せり。如何なる三十二相をか……王子は頭頂に肉髻あり。……かくの如き〔瑞〕相は諸の菩薩に〔のみ〕生ずるなり。また、……王子の身体には<八十種随好>あり。……
- ⑨仏讚（大正04 p.002下）；仙人觀太子 足下千輻輪 手足網縵指 眉間白毫時 馬藏隱密相 容色炎光明
- ⑩BC. (01-60)；……この偉大なる聖者（アシタ）は、この王子が足の裏に輪の印があり、手足の指のあいだには網模様がはりめぐらされ、両眉のあいだには捲毛が生え、鬘丸は象（馬？）のそのように表に見えず、奥にはいりこんでいる（馬藏隱密相）のをしげしげと眺めていた。
- ⑪行經（大正04 p.061上）；阿夷熟視之 眼翫青紺光 舌如蓮花葉 頭髮紺青色 …… 其有充満足 三十二妙好 必当成為仏
- ⑫過去（大正03 p.627上）；爾時仙人又答王言。大王、太子具三十二相。一者足下安平平如奩底。……
- ⑬集經（大正03 p.692下）；（アシタ仙人到来前）時淨飯王。聞是記已。復更重問婆羅門言。太子何処は大丈夫三十二相。
- ⑭集經（大正03 p.695下）；阿私陀仙、復白王言。大王……如是勝相、非是轉輪聖王之相。今此童子、有百善相、八十随形。……彼人……得菩提已。……從今已去、三十五年、此之童子、必得成於阿耨多羅三藐三菩提。……
- ⑮MV. (vol. II p.029, Jones II p.026)；（アシタ仙人到来前）大自在天（Mahēśvara）達がやってきて王に言う。「王は大変な利益を獲られました。三十二大人相を具えた偉大な人物が王の家に生まれた」
- ⑯MV. (vol. II p.043, Jones II p.040)；仏陀は八十種好 (aśītyanuvyaṃjana) を有している。
- ⑰衆許（大正03 p.940中）；爾時淨飯王復問相師、云何我子三十二相。相師答言、三十二相者、一太子足下……若不出家年三十二作金輪王。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.005下）；道人披髻相太子、見三十二相。（出普曜經）
- ②釈迦（大正50 p.018上）；爾時仙人又答王言、大王太子具三十二相。（出因果經）
- ③氏譜（大正50 p.089下）；經云。太子身黃金色、三十二相光照大千。……一切天人讚歎種智。速成仏道早轉法輪度脱衆